

## 新しい人を着る

(コロサイ3・12～17)

### 一、世に生きる信仰者として

私共キリスト教会は、そして教会に連なるキリスト者たちは、世の中に置かれていきますから、神不在の世界と係わるようになりません。もちろんそれは、福音を伝える機会にもなりますが、世の中に「信仰」をつぶされそうになる苦しみがあります。中には、世の中に目覚めてしまつて、教会生活から離れ、信仰を失つてしまつ方も出てまいります。ですが、私共が主イエス・キリストの福音に留まっているなら、世が私共をつぶしてしまつことはありません。ヨハネの手紙第一に今子どもたち。あなたがたは神から出た者であり、彼らに勝ちました。あなたがたのうちにおられる方は、この世にいる者よりも偉大だからです。(4・4)と書かれているようにです。ちなみに、ヨハネの手紙における「彼ら」とは、キリスト信仰の異端者のことですが、彼らはこの世の者であると語られています(4・5)。そして彼らがあるいは不信仰な思いが、神に打ち勝つことはありません。

### 二、新しい人を着る

12節を、ご覧ください。今ですから、あなたがたは神に選ばれた者、聖なる

者、愛されている者として、深い慈愛の心、親切、謙遜、柔和、寛容を着なさい。と語られています。〈深い慈愛の心、親切、謙遜、柔和、寛容を着なさい〉は「イエス・キリストを着なさい」と同じことです。ガラテヤ書5章22節、23節の御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制です」と同じだからです。それは、私共「生まれながらの人」が備えていない性質です。主イエス・キリストを信じて、主の救いに与ることによって、私共に現れて来る性質です。この、新しい人を着るといふ表現は、9節、10節で語られています。互いに偽りを言つてはいけません。あなたがたは古い人をその行いととも脱ぎ捨てて、新しい人を着たのです。〈

新しい人を着る〉とは、神が創造された霊、すなわち一人ひとりを他者から区別して一人人としていた源は、そのままであるということ。聖書が語る「霊」は「神である主は、その大地のちりて人を形造り、その鼻にのちの息を吹き込まれた。それで人は生きるものとなつた」と、創世記2章に書かれている「霊」のことです。「霊」は不思議です。女性の胎の中で新しい命が誕生した時に、一人ひとりを他者から区別して一人人としている源である「霊」が吹き込まれます。そして「霊」は誕生してから死ぬまで、その人自身であつて、ある日目覚めたら別人の「霊」

になつていた、ということはないのです。臓器の移植を受けて、性格が変わることは知られていますが、人生の途中で、別人の「霊」になるということはありません。不思議ですね。そういうわけで、「新しい人を着る」とは、まったくの別人になつてしまつという意味ではありません。当然のこと、過去が消えるわけではありません。何十年経つても過去は消えません。「新しい人を着る」とは、それによって過去が消えるのではなく、過去を引きずりつづも、できる限り償いをして、軽くなって生きて行くことであると思います。

さらに、新しい人を着た人は、赦し続ける人であると教えられます。13節です。互いに忍耐し合い、だれかがほかの人に不満を抱いたとしても、互いに赦し合いなさい。主があなたがたを赦してくださいのように、あなたがたもそうしなさい。とあります。忍耐は必要です。おそらく私たちの一人ひとり、それぞれにだれかによって忍耐されていることと思います。もし私がある人から、「玉川さん、私はずっとあなたを忍耐してきました」と言われたら、心にすこく傷が付きまします。ですが、おそらくそのように思っている人が、どこかにいると思います。そういう時は「こめんなさい」と語り、心の中で「神が創造された私だから、仕方がない」と思つたらよろしいかと思ひます。反対に、ど

うしても忍耐を強いられる人がいたら、「あの人も神が創造された人であり、あの人のためにもキリストは贖いの死を遂げられた」と受け止めたらいかがでしょうか。〈主があなたがたを赦してください〉のように、あなたがたもそうしなさい。と、聖書は語っています。すなわち、神は語つておられます。

### 三、愛は結びの帯

14節を見てまいります。今そして、これらすべての上に、愛を着けなさい。愛は結びの帯として完全です。とあります。ここに再び「愛を着けなさい」ということが出てまいります。フランシスコ会訳は「愛をまといなさい」としています。ですが、元のテキストに「着なさい」ということはありません。直訳しますと、「そして、これらすべての上に愛を着けなさい。愛は結びの帯として完全です」という、きれいな日本語にしているわけです。

そういうわけで皆さま。人を赦し、愛し、受け入れることが、神の御意思であると知ろうではありませんか。同時に自分に対しては、等身大の自分を見失わないようにし、自分を過大評価したり、自己卑下に陥つたりしないようにするのがよろしいかと考えます。それが「新しい人」の姿です。